

調 査 研 究

配偶者選択の現状

—「結婚に関する人口学的

調査」の結果から—

今泉 洋子・金子 隆一

はじめに

わが国における配偶者選択の研究¹⁾は主に、通婚圏²⁾、社会移動³⁾の視点から行われてきた。また、配偶者選択の研究は家族社会学の新しい研究課題である⁴⁾と共に、遺伝学の分野でも地理的通婚圏、近親婚、選択結婚 (assortative mating) に関する研究が行なわれている。一方、配偶者選択の基準 (容姿、職業など) となる制約条件に関する調査研究もいくつかある⁵⁾。このほか、結婚形態、配偶

- 1) 安田三郎 (後掲、注3) の文献) によれば、配偶者選択の研究は「自由結婚制の下で、配偶者が多くの潜在的候補者の中からいかに選ばれるのか、その選択に影響する諸要因は何であるかを研究する」ことであると述べている。
- 2) 次掲の諸文献を参照。
小山隆、「通婚圏の意味するもの」、『社会学の諸問題』、高田保馬博士古稀祝賀論文集、有斐閣、1954年、PP. 393-408。
竹内利美、「通婚圏についての一考察」、『社会学の問題と方法』、新明博士還歴記念論文集刊行会 (編)、有斐閣、1959年、PP. 257-272。
篠崎信男、「通婚圏に関する一考察」、『人口問題研究所年報』、1967年、PP. 48-52。
篠崎信男、「昭和47年第6次出産力調査報告 (その12)、通婚圏問題と人口政策」、『人口問題研究』第130号、1974年、PP. 46-52。
- 3) 安田三郎、「女性の社会移動—社会移動としての配偶者選択—」、『社会移動の研究』、東大出版会、1971年、PP. 223-245。
- 4) 望月嵩、「配偶者選択と結婚」、『社会学講座3、家族社会学』、森岡清美 (編)、東大出版会、1972年、PP. 37-62。
- 5) NHK放送世論調査所、「日本の夫婦像」調査結果の概要、1977年11月。
湯沢雅彦、「現代青年の結婚観・家庭観—意外に保守的なその意識—」、『月刊エコノミスト』第2巻3号、1971年、PP. 50-55。
公明党大阪府本部青年局、『若い女性の生活と意見—「OL意識調査報告書」—』、1977年5月。

者を紹介した人、配偶者が知り合った機会に関する調査研究もいくつかある⁶⁾。

配偶者選択の制約条件は図1の模式図に示すように、適格者の範囲（年齢）、地理的範囲（出生地、結婚前の居住地）、社会経済的階層、選択の基準（個人的結婚条件）、宗教などがある。本稿の目的は、わが国における配偶者選択の現状把握と、そのメカニズム解明の手がかりを得ることである。

用いた資料は昭和58年9月1日に実施した「結婚に関する人口学的調査」から得られた結果である。本調査に関する全般的な結果については、既に刊行されている調査報告書を参照されたい⁷⁾。

I 調査実施の概要

本調査は全国から6地域を選定し、各地域に在住している65歳未満の1,600夫婦を対象に、昭和58年9月1日現在の事実について配票自計・密封回収方式によって行われた。調査票の種類は夫婦票、夫票、妻票の3種類である。なお、

プライバシー保護のため各調査票に対し、それぞれ専用の封筒を用意し、調査項目を記入した後、ただちに調査票を封筒に入れ密封し、回収に訪れた調査員に渡すことを徹底して行われた。

表1は選定された調査地域、調査客体数、調査有効票数を示している。

II 調査結果の概説

1. 配偶者選択の機会

(1) 結婚形態

図2は見合結婚と恋愛結婚をした夫婦の割合を結婚年別に示している。昭和24年以前に結婚したグループでは、見合結婚が65%を占めていたが、この割合は結婚年次と共に減少し、昭和40~44年には恋愛結婚と同程度(46~48%)になり、その後は恋愛結婚に抜かれ、最近結婚したグループでは28%まで低下している。一方、恋愛結婚の割合は22%から結婚年次と共に上昇し、最近結婚したグループ

6) R. O. ブラッド著、田村健二監訳、『現代の結婚—日米の比較—』、培風館、1978年、P. 333。

厚生省大臣官房統計調査部、『昭和41年度人口動態社会経済面調査報告（婚姻）』、1968年。

厚生省大臣官房統計調査部、『昭和48年度人口動態社会経済面調査報告（婚姻）』、1974年。

厚生省人口問題研究所、『昭和57年第8次出産力調査（結婚と出産力に関する全国調査）—第I報告書—日本人の結婚と出産』、実施調査報告資料、1983年3月。

労働省婦人少年局、『婦人の地位に関する実態調査—結果報告書—』、婦人関係調査資料No.61、1973年。

7) 厚生省人口問題研究所『結婚に関する人口学的調査』、実地調査報告資料、1984年10月。

図1 配偶者選択の制約条件を示す模式図

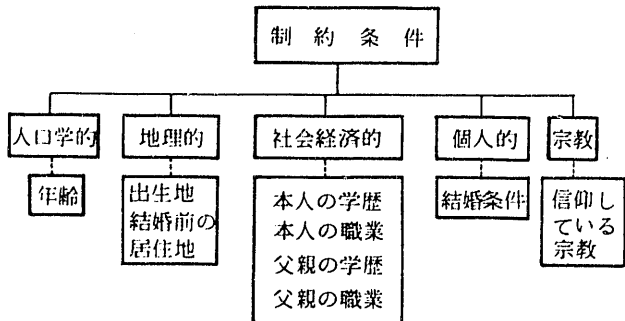


表1 調査地域別、調査客体数と調査有効票数

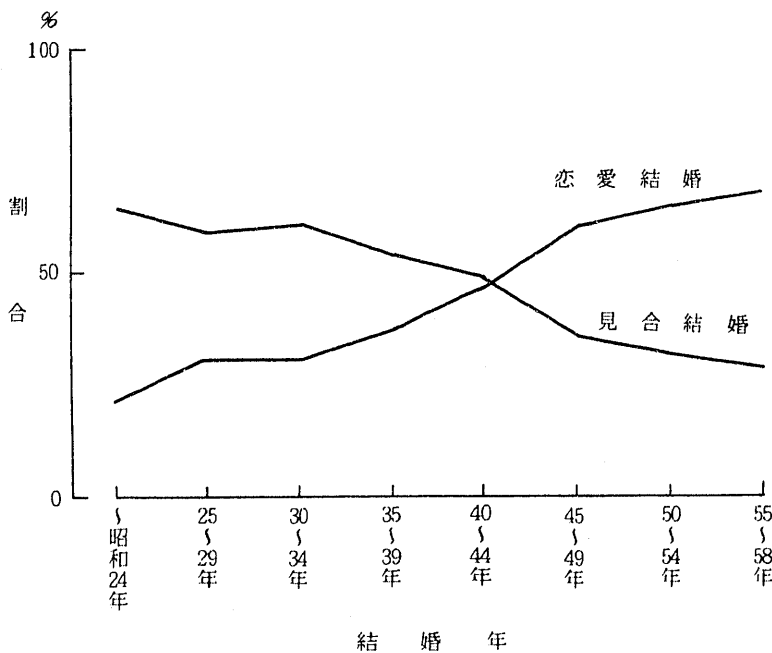
調査地域	調査客体数	調査有効票数
北海道 旭川市と8町*	1,600世帯	1,544票
宮城県 多賀城市	1,600世帯	1,583票
山梨県 身延町	1,600世帯	1,555票
愛知県 岡崎市	1,600世帯	1,527票
兵庫県 川西市	1,600世帯	1,458票
長崎県 福江市	1,600世帯	1,558票
合計	9,600世帯	9,225票

* (旭川保健所管内)

表2 地域別にみた見合結婚と恋愛結婚の割合

地域	夫婦組数	見合	恋愛	その他	恋愛/見合
旭川地方	1,506	39.11%	56.11%	4.78%	1.43%
多賀城市	1,551	58.28	38.10	3.61	0.65
身延町	1,482	54.93	38.87	6.21	0.71
岡崎市	1,453	51.96	42.46	5.57	0.82
川西市	1,355	46.72	46.86	6.42	1.00
福江市	1,407	31.06	57.85	11.09	1.86
合計	8,754	47.20	46.58	6.21	0.99

図2 見合結婚と恋愛結婚割合の推移



では67%に達している。これらの結果は、全国標本調査である第8次出産力調査の中で得られた結果とよく一致している⁸⁾。

次に、地域別に結婚形態を比較すると(表2)、見合結婚の割合が高い地域は多賀城市(58%)、逆に低い地域は福江市(31%)であった。恋愛結婚の見合結婚に対する比率をみると、福江市は恋愛結婚の方が見合結婚の1.9倍、旭川地方が1.4倍、川西市では両者が同じ割合、その他の地域では逆に、見合結婚の方が恋愛結婚より多くなっている。したがって、調査地域によって結婚形態はかなり異なることが分る。なお、再婚を含む全夫婦と初婚同士の夫婦について結婚形態を比較すると、前者の方が後者より1%ほど見合結婚の割合が高い程度であった。

表3は夫妻の学歴別に見合結婚と恋愛結婚の割合を示している。最終学歴が新制中学・

旧制高小・旧制小学校の場合には夫妻とも見合結婚(57%)の方が、恋愛結婚(35%)より多いが、そのほかの学歴では逆に恋愛結婚の方が見合結婚より多くなっている。特に、妻の場合には高学歴ほど恋愛結婚の割合が多く、大卒以上では見合結婚35%に対し、恋愛結婚は60%であった。

(2) 知り合ったきっかけ

前節で述べたように、わが国においては見合結婚が減少し、恋愛結婚が増えている。見合結婚においては、必ず配偶者同士を紹介した人がいた筈であるが、恋愛結婚の場合には配偶者同士が直接的に知り合うことが多い。そこで、本節では配偶者同士が直接知り合った場合(直接婚)と、他人の仲介によって知り合った場合(間接婚)とに分けて⁹⁾、知り合ったきっかけについて調べた。

8) 厚生省人口問題研究所、前掲(注14)、『日本人の結婚と出産』、PP. 28-29。

9) 本調査において、直接婚と間接婚の分類は次の方法により行った。「見合結婚」をした全夫婦、「恋愛結婚」と「その他の結婚」をした夫婦のうち他人の紹介によって知り合った夫婦は間接婚として分類した。一方、「恋愛結婚」と「その他の結婚」をした夫婦から、他人の紹介によって知り合った夫婦を除いた、残りの全夫婦を直接婚とした。

表3 学歴別にみた見合結婚と恋愛結婚の割合

学 歴	人 数	見 合	変 愛	その他
夫				
新制中学、旧制高小、 旧制小学校	3,001	57.8%	34.5%	7.7%
新制高校、旧制中学校	3,341	43.1%	51.2%	5.7%
専修学校(新制高卒後)	512	35.2%	60.7%	4.1%
短 大、高 専	405	41.5%	53.6%	4.9%
大 学 以 上	1,294	39.8%	54.3%	5.9%
そ の 他	37	40.5%	56.8%	2.7%
不 詳	164	48.2%	48.2%	3.7%
合 計	8,754	47.2%	46.6%	6.2%
妻				
新制中学、旧制高小、 旧制小学校	3,086	56.4%	35.9%	7.7%
新制高校、旧制高女	3,783	43.8%	50.5%	5.7%
専修学校(新制高卒後)	731	38.9%	57.2%	4.0%
短 大、高 専	743	39.6%	55.5%	5.0%
大 学 以 上	225	35.1%	60.4%	4.4%
そ の 他	37	37.8%	43.2%	18.9%
不 詳	149	43.0%	51.7%	5.4%
合 計	8,754	47.2%	46.6%	6.2%

1) 直接婚

見合結婚以外の夫婦について、どのようにして相手と知り合ったかを尋ねたところ、全体の47%は「職場や仕事の関係」と答えている。次に多いのは「きょうだいや友人の関係で」(11%)、「旅先や街なかなどでのレジャーの際に」(8%)、「サークルやクラブ活動・習いごとで」(6%)、「学校で」(6%)、「幼なじみだった」(5%)の順であった。次に、結婚年次別に知り合ったきっかけの変遷をみることにしたい(図3)。この図から、知り合ったきっかけで一番多いのは「職場や仕事の関係」であった。この項目が占める割合は年次と共に上昇し、昭和45~49年に結婚したグループでは過半数(53%)を占めるに至るが、その後はやや減少していた。次に多いのは「きょうだいや友人の関係」であった。この項目が占める割合は、どの結婚年次でも10%前後であった。第3番目に多い項目は「旅先や街なかなどでのレジャーの際」であった。この項目が占める割合は昭和24年以前に結婚したグループでは30%であったが、年次

図3 夫妻が知り合ったきっかけ別夫婦割合の推移

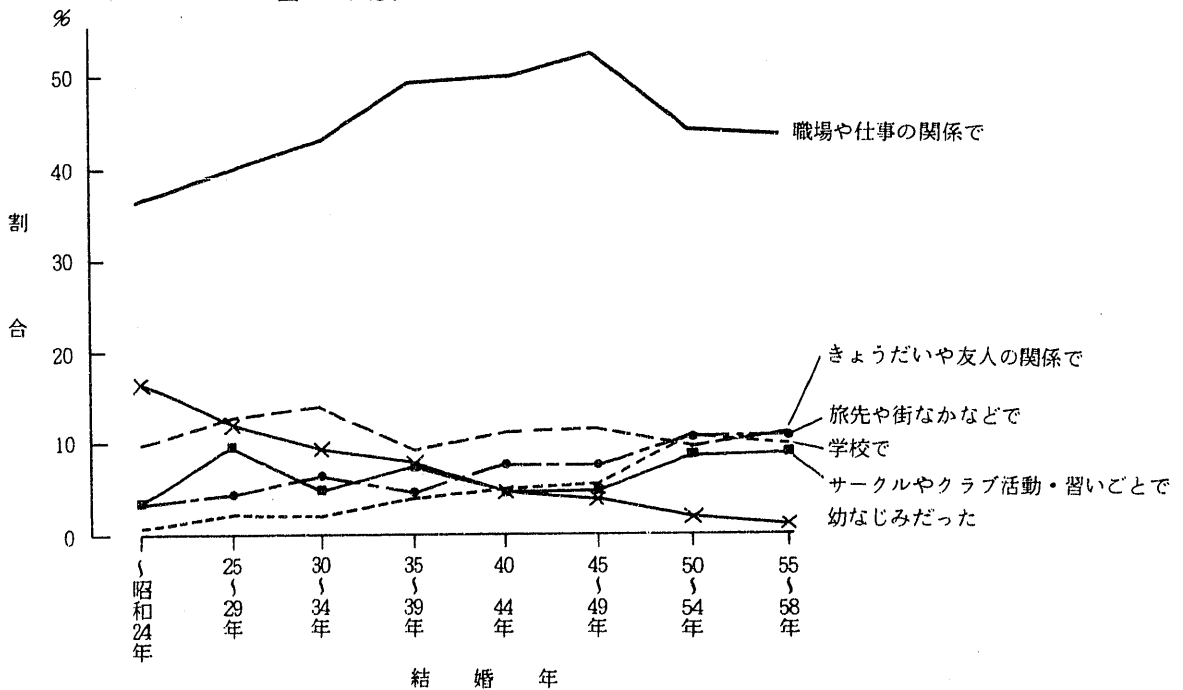


表4 地域別にみた夫婦の知り合ったきっかけ別夫婦割合(%)

地域	夫婦組数	他人の紹介	幼なじみ	学校で	職場・仕事の関係で	サークル習いごとで	きょうだい 友人関係で	でのレジャーの際に 旅先や街なかなど	その他
旭川地方	900	10.6	3.0	6.2	51.9	8.3	9.4	7.6	3.0
多賀城市	631	12.5	4.1	5.0	49.9	4.3	11.4	8.7	4.1
身延町	639	14.9	7.5	4.3	44.0	9.6	10.2	5.3	4.2
岡崎市	679	12.2	2.8	7.2	51.1	5.6	10.8	8.4	1.9
川西市	703	12.8	5.4	4.6	48.2	5.3	11.7	7.7	4.4
福江市	927	15.0	9.3	6.6	38.0	5.5	12.1	7.9	5.7

表5 初婚同士の夫婦について、夫妻の学歴別、知り合いのきっかけ別夫婦割合(%)

学歴	夫婦組数	他人の紹介で	幼なじみだった	学校で	職場や仕事の関係で	サークルやクラブ 活動習いごとで	きょうだい 友人関係で	でのレジャーの際に 旅先や街なかなど	その他
夫									
新制中 旧制高小	1,266	15.6	8.6	1.0	39.9	5.6	12.3	7.3	5.3
新制高 旧制中	1,901	12.8	4.2	4.4	49.6	6.5	10.6	6.4	3.2
専修学校 (新制高卒後)	332	9.9	3.6	6.9	47.6	5.1	8.7	11.8	4.2
短大・高専	237	9.3	4.2	5.9	53.2	8.0	7.6	6.8	3.0
大学以上	779	9.2	3.7	15.3	41.6	7.8	9.1	7.8	3.2
その他	22	9.1	-	9.1	36.4	9.1	18.2	4.6	4.6
不詳	85	11.1	2.4	2.4	44.7	2.4	10.6	12.9	3.5
妻									
新制中 旧制高小	1,345	15.6	8.8	1.0	40.6	5.6	11.0	7.4	6.0
新制高女 旧制高女	2,127	11.7	4.2	4.7	50.5	5.8	10.4	7.2	2.9
専修学校 (新制高卒後)	447	10.5	3.1	9.2	45.2	6.7	10.1	8.3	4.5
短大・高専	449	11.1	3.3	10.7	42.1	10.5	11.1	7.6	2.2
大学以上	146	5.5	3.4	35.6	30.1	6.9	9.6	5.5	2.1
その他	23	13.0	-	8.7	47.8	8.7	8.7	-	-
不詳	85	16.5	2.4	1.2	42.4	1.2	10.6	11.8	2.4

と共に上昇し最近結婚したグループでは11%に達している。同じく、「サークルやクラブ活動・習いごと」ならびに「学校で」知り合った割合も年次と共に上昇している。これに対して、「幼なじみだった」の割合は昭和24年以前に結婚したグループでは17%であったが、その後は年次と共に減少し、最近結婚したグループの値は1%にまで低下した。

地域別に知り合ったきっかけを比較すると(表4)、どの地域においても「職場や仕事の関係で」と答えた割合が一番多く、この割合は38%(福江市)から52%(旭川地方)の間に分布していた。一方、「幼なじみだった」の割合は2.8%(岡崎市)から9.3%(福江市)の間に分布していた。なお、この項目が占める割合は都市部で低く、町で高い傾向がみられた。次に、「きょうだいや友人の関係で」知り合った割合は9%(旭川地方)から12%(福江市)の間にあり、地域差はほとんどみられなかった。同じく「学校で」知り合った割合も地域差が小さく、4%(身延町)から7%(岡崎市、福江市)の間であった。また、「旅先や街なかなどでのレジャーの際に」知り合った割合は身延町でやや低い(5.3%)傾向にあったが、他の地域では8%前後であった。ところが「サークルやクラブ活動・習いごと」で知り合った割合は4%(多賀城市)から10%(身延町)の間に分布しており、僅かながら地域差が得られた。

次に初婚同士の夫婦について、夫婦の学歴別に知り合ったきっかけをみることにしたい(表5)。夫の学歴別に直接知り合ったきっかけを見ると、「職場や仕事の関係で」知り合った割合がどの学歴でも一番多く40%(新制中学・旧制小・高小)から53%(短大・高専)を占めていた。ところが2番目に高い「きょうだいや友人の関係で」知り合った割合は学歴が低いグループでは高いが、専修学校卒では「旅先や街なかなどでのレジャーの際に」、短大・高専卒では「サークルやクラブ活動・習いごと」で、大卒以上では「学校で」と学歴によって異なっている。次に、妻の学歴別に知り合ったきっかけをみると、大卒以上では「学校で」知り合った割合(36%)が「職場や仕事の関係で」知り合った割合(30%)を抜いてトップを占めているが、他の学歴では、いずれも「職場や仕事の関係で」知り合った割合がトップを占めている。しかしながら、「学校で」知り合った割合は高学歴ほど高くなっているのが特徴的である。一方、「きょうだいや友人の関係で」知り合った割合は学歴とは無関係に10%前後であった。また、「幼なじみだった」割合は夫妻ともに新制中学・旧制高小・旧制小学校でやや高い傾向がみられた。

2) 間接婚

既存調査や本調査から明らかのように、わが国においては見合結婚が減り、恋愛結婚が増えている。このような状況において、他人の仲介によって結婚した(間接婚)夫婦の紹介者も時代と共に変化していると思われる。

まず、他人の仲介によって結婚した夫婦について、誰の紹介によって相手と知り合ったかをみると、31%の夫婦が「家族以外の親せきの人」と答えている。次に多い紹介者は「家族や親せきの知人」(25%)、「職場の関係の友人・知人(上役などを含む)」(16%)、「家族・学校・職場関係以外の友人・知人」(12%)、「親・きょうだい・子供などの家族の人」(10%)の順であった。

次に、間接婚をした夫婦の紹介者内訳の変遷をみることにしたい(図4)。紹介者が「家族以外の親せきの人」、「家族や親せきの知人」、「親・きょうだい・子供などの家族の人」の割合は結婚年次と共に減少しているが、「職場の関係の友人・知人(上役なども含む)」、「家族・学校・職場関係以外の友人・知人」、「学校の関係の友人・知人(先生などを含む)」の割合は上昇している。

地域別に紹介者の内訳をみると(表6)、紹介者の中で一番多い「家族以外の親せきの人」の占める割合は23%(旭川地方)から45%(身延町)、次に多い「家族や親せきの知人」の割合は21%(福

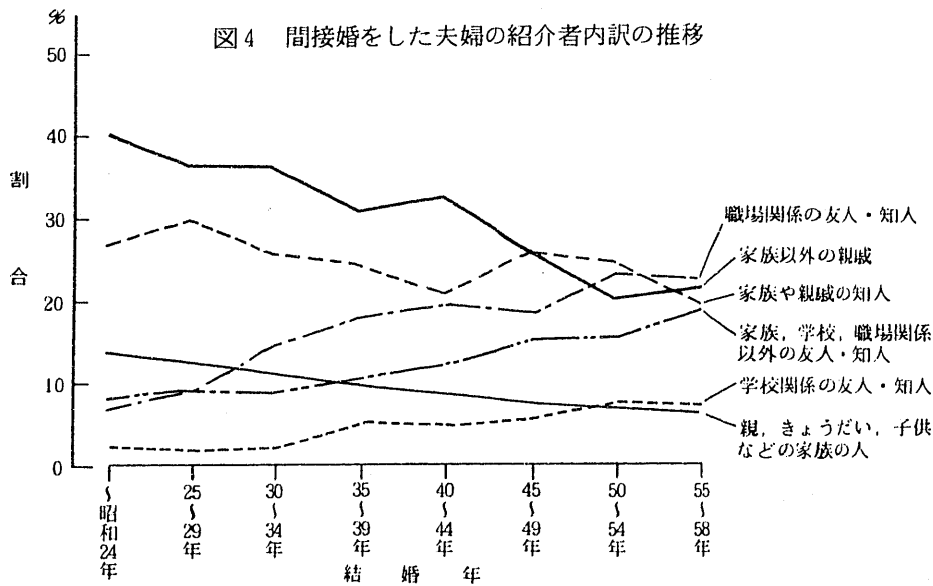


表6 地域別にみた紹介者内訳

	旭川地方	多賀城市	身延町	岡崎市	川西市	福江市
夫婦組数	647	934	843	792	672	508
親・兄弟などの家族	9.3%	6.6%	9.3%	10.2%	9.7%	16.5%
家族以外の親戚	23.5	33.4	45.1	26.4	25.6	29.9
家族や親戚の知人	21.8	27.9	21.8	27.4	24.7	21.5
小計	54.6	67.9	76.2	64.0	60.0	67.9
学校関係の友人・知人	4.8%	3.9%	2.7%	6.4%	4.0%	5.3%
職場関係の友人・知人	24.1	12.5	11.0	16.2	19.5	17.3
上記以外の友人・知人	13.9	13.2	9.0	11.6	13.2	9.5
結婚相談所等紹介機関	0.5	0.2	0.1	0.1	1.8	-
その他	2.2	2.3	1.0	1.6	1.5	-
小計	45.5	32.1	23.8	35.9	40.0	32.1

に紹介者が「家族以外の親せきの人」の割合は年齢と共に減少している。なお、夫側では35歳未満では30%以上の割合で親せきの人が結婚相手のせわをしているが、35歳を過ぎるとこの割合は18%まで低下している。一方、「家族の人」がせわをする割合は夫婦ともに10%前後で、年齢には無関係であった。「職場の関係の友人・知人」が結婚相手をせわする割合は、夫婦ともに年齢が高くなるにつれて上昇している。

次に、結婚相手の世話をしてくれた人（紹介者）は結婚前に従事していた職業によって異なるか否かを見ることにしたい。表8は結婚前の職業別にみた夫婦の結婚相手の紹介者内訳を示している。「親・きょうだい・子供などの家族の人」が紹介者である割合は職業によってほとんど差がみられないが（8～12%）、「家族以外の親せきの人」が紹介者である場合は夫が18%（管理職）から42%（農林・漁業）、妻が22%（販売職）から41%（農林・漁業）、同じく「職場の関係の友人・知人」が紹介者である割合は夫が5%（農林・漁業）から23%（サービス・保安・運輸通信）、妻が7%（農林・漁業）から24%（販売職）であった。したがって、従事していた職業によって「家族以外の親せきの人」や「職場の関係の友人・知人」が紹介者である割合は、かなりの格差がみられる。

以上をまとめると、結婚相手の紹介者も年次と共に親族から非親族へと移り変わりつつあり、更に、この傾向は農村よりも都市ほど顕著であった。一方、結婚時の年齢別に結婚相手の紹介者をみると、

江市）から28%（多賀城市）、「職場の関係の友人・知人（上役なども含む）」の割合は11%（身延町）から24%（旭川地方）の間に分布していた。一方、親族が関係した紹介者と親族以外の紹介者に分けると、全国平均では前者が66%、後者が32%であるのに対し、この比率は旭川地方で54%と43%、身延町で76%と32%であった。したがって、地域によって結婚相手の仲介者としての親族と非親族の果たす役割には大きな開きがあることがわかる。

次に、間接婚をした夫婦の紹介者内訳を夫妻の結婚年齢別にみると（表7）、夫婦とも

表7 夫妻の結婚年齢別にみた紹介者内訳の夫妻割合

結婚年齢	合計	家族	親戚	親戚の知人	学校関係	職場関係	その他の知人	紹介機関	その他
夫									
合計	3,993	9.6%	31.6%	24.6%	4.4%	16.2%	11.9%	0.2%	1.5%
～24歳	540	11.3	34.4	23.2	6.9	11.7	10.6	-	1.9
25～29	2,305	10.2	31.6	25.2	4.0	16.1	11.2	0.2	1.6
30～34	839	7.6	30.9	24.1	3.3	18.8	13.7	0.6	1.0
35～	125	11.2	17.6	26.4	8.0	21.6	14.4	-	0.8
不詳	184	6.5	36.4	23.4	4.4	14.7	13.0	-	1.6
妻									
合計	3,993	9.6%	31.6%	24.6%	4.4%	16.2%	11.9%	0.2%	1.5%
～24歳	2,158	10.4	33.0	24.7	4.5	14.6	10.8	0.2	1.8
25～29	1,435	8.9	29.8	24.5	4.3	17.8	13.5	0.3	0.8
30～34	147	7.5	25.2	24.5	4.1	24.5	10.2	0.7	3.4
35～	39	12.8	20.5	20.5	10.3	18.0	18.0	-	-
不詳	214	7.9	36.5	25.7	2.8	14.5	11.2	-	1.4

表8 夫妻の結婚前の職業別にみた紹介者内訳の割合(%)

結婚前職業	夫婦組数	紹介者							
		家族	親戚	親戚の知人	学校関係	職場関係	その他の知人	紹介機関	その他
夫									
農林・魚業	652	10.89	41.56	28.99	2.15	5.21	9.36	-	1.84
上記以外の自営業	462	10.17	31.60	26.84	5.63	11.04	12.77	0.43	1.52
事務職	738	8.40	27.24	24.80	4.61	20.60	12.60	0.54	1.22
技能職及び一般労働職	1,152	9.55	34.29	22.57	3.65	17.01	11.28	0.43	1.22
販売職	259	8.88	27.80	25.48	5.02	18.92	13.13	-	0.77
管理職	90	12.22	17.78	25.56	6.67	21.11	13.33	2.22	1.11
専門的技術職及び研究職	373	10.19	25.74	22.52	7.77	18.77	11.53	0.80	2.68
サービス・保安・運輸通信	465	10.97	26.24	20.86	4.73	22.58	12.47	0.22	1.94
無職	24	8.33	8.33	37.50	4.17	25.00	12.50	-	4.17
その他	4	25.00	-	50.00	-	-	-	25.00	-
妻									
農林・魚業	716	11.03	40.78	29.75	1.40	6.70	8.10	0.14	2.09
上記以外の自営業	171	9.94	32.75	24.56	2.34	15.79	12.87	0.58	1.17
事務職	1,138	7.64	26.98	22.93	6.41	21.18	12.65	0.79	1.41
技能職及び一般労働職	580	11.55	33.10	22.93	2.24	18.28	10.86	0.17	0.86
販売職	247	7.69	22.27	23.89	5.26	24.29	16.60	-	-
管理職	3	33.33	66.67	-	-	-	-	-	-
専門的技術職及び研究職	341	9.38	27.86	19.94	9.09	17.89	13.78	-	2.05
サービス・保安・運輸通信	299	12.37	27.09	17.39	5.69	22.74	13.04	0.67	1.00
無職	83	10.84	36.14	28.92	2.41	7.23	12.05	-	2.41
その他	441	10.66	32.20	28.34	4.76	10.20	11.79	0.45	1.59

「親・きょうだい・子供などの家族の人」が紹介者になる割合は結婚年齢に関係なく10%程度であったが、家族以外の人を紹介者になる割合は結婚年齢により変化がみられる。また、結婚前に従事していた職業によっても、紹介者内訳の格差がみられた。なお、結婚相手の紹介者として結婚相談所などの紹介機関を通して結婚した夫婦は19組いた。

2. 配偶者選択の範囲

配偶者選択は無作為に行われるのではなく、なんらかの形で地理的、社会経済的、文化的制約を受けている。したがって、人々はこれらの制約条件のもとで、結婚相手を選択しなければならない。本章では、これらのうち地理的通婚圏、同類婚および近親婚について順に述べたい。

(1) 地理的通婚圏

交通網が未発達だった時代には、配偶者を選ぶ地理的範囲はおのずから限ぎられていたが、交通の便がよくなると配偶者を選ぶ範囲も広がってくる。このように配偶者を選ぶ範囲のことを通婚圏という。通婚圏は地理的、社会的、経済的、宗教、人種など種々の要因によって影響を受ける。

表9は夫妻が知り合った時に住んでいた住所地組み合わせが同一市町村、同一府県、他府県同士の割合を地域別に示している。全国平均では、市町村一致率は52%、府県一致率は87%であった。地域別にみると、前者は28%（川西市）から77%（福江市）、後者は58%（川西市）から98%（旭川地方）の間に分布していた。したがって、地域によってかなりの格差がみられる。

表9 地域別にみた夫妻の婚前住所地組み合わせの割合

地 域	夫婦組数	同一市町村	同一府県	他 府 県
旭川地方	1,450	67.7%	97.6%	2.4%
多賀城市	1,459	34.1	90.4	9.6
身延町	1,400	50.1	87.4	12.6
岡崎市	1,392	55.5	92.6	7.0
川西市	1,278	28.3	58.2	41.8
福江市	1,362	77.5	92.8	7.2
合 計	8,341	52.4	87.0	13.0

次に、結婚年次と共にこれらの値はどのような推移を示すかをみてみたい（表10）。同一市町村一致率は昭和30年以前に結婚した夫婦では60%前後であったが、昭和30～34年に結婚した夫婦では53%に急減し、その後は50%前後とほぼ横ばい傾向にある。これに対して、他府県同士の割合は9%から徐々に上昇し、昭和50～54年に結婚した夫婦では17%に達した。しかし、昭和55年以降は10%と急減している。

表10 結婚年別にみた夫妻の婚前住所地組み合わせの割合

結 婚 年	夫婦組数	同一市町村	同一府県	他 府 県
～昭和24年	606	57.9%	90.9%	9.1%
25～29	812	60.7	91.4	8.6
30～34	946	53.2	90.3	9.7
35～39	1,146	53.2	88.0	12.0
40～44	1,246	48.6	84.1	15.9
45～49	1,380	49.6	83.7	16.3
50～54	1,160	49.1	83.3	16.7
55～58	764	52.6	89.7	10.3
不 詳	281	54.1	88.6	11.4
合 計	8,341	52.4	87.0	13.0

次に、夫妻の出生地組み合わせの割合を結婚年次別にみることにしたい（図5）。市町村一致率と府県一致率は結婚年次と共に昭和44年まで減少し、その後は徐々に上昇していることがわかる。一方、他府県同士組み合わせ率は昭和44年まで上昇するが、その後は減少傾向にある。このように市町村一致率もしくは府県一致率が昭和45年以降上昇傾向を示し、逆に他府県同士組み合わせ率が減少傾向にあることは、人口移動の動向を反映しているからであろう。

次に、夫妻の出生地組み合わせが同一市町村、同一府県であった割合を地域別に較べると（表11）、

図5 結婚年別にみた夫妻の出生地組み合わせ率

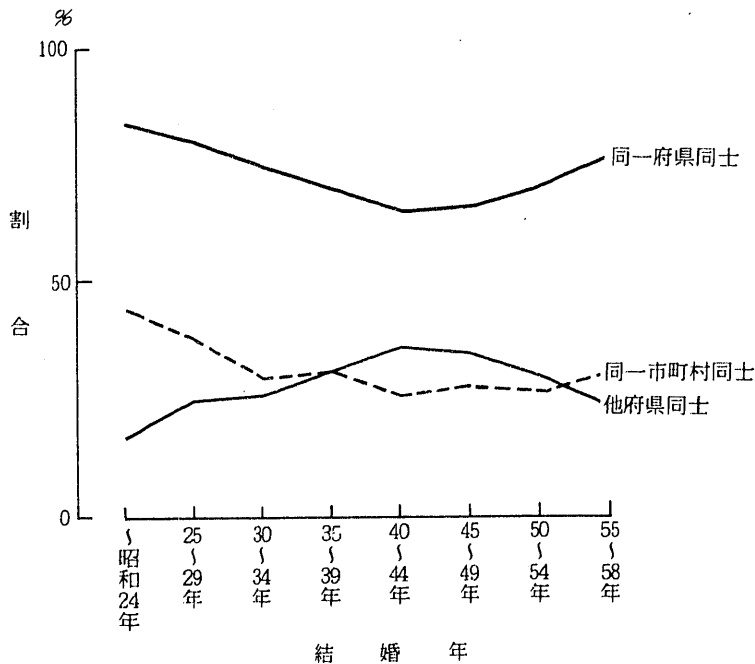


表11 地域別にみた夫婦の出生地組み合わせの割合

地域	夫婦組数	同一市町村	同一府県	他府県
旭川地方	1,394	31.0%	83.1%	16.9%
多賀城市	1,449	15.6	73.4	26.6
身延町	1,421	36.7	77.9	22.1
岡崎市	1,362	28.3	71.2	28.8
川西市	1,236	14.2	38.0	62.0
福江市	1,346	55.3	83.3	16.7
合計	8,208	30.4	71.8	28.2

ば同類婚，負相関になれば異類婚とする方法がとられる。一方，数量化できない属性に関しては，同類婚・異類婚の相対頻度の尺度として考案された同類婚指数が使われる。後者の指数は夫妻のカテゴリ-組み合わせ別頻度を，配偶者選択がランダムに行われると仮定した場合の理論上の期待値で除した商によって求められる。

1) 学 歴

夫妻の学歴組み合わせ別同類婚指数をみると(表12)，この表の対角線上にある同類婚の組み合わせの指数が全て1以上を示し，高いことが伺える。特に大卒者同士の組み合わせの指数が高い(3.4)。一方，同類婚ではないが，大卒の夫と短大・高専卒の妻および大卒の夫と専修学校卒の妻の組み合わせも多い。逆に，大卒の夫と新制中学・旧制高小・旧制小学校卒の妻の組み合わせの指数は低い(0.68)。また，この逆の組み合わせ指数も低い(0.29)。

以上から学歴に関しては同類婚をしているといえる。なお，表12から明らかなように，女性は自分と同学歴かそれ以上の学歴の人と結婚し，男性は自分と同学歴かそれ以下の学歴の人と結婚する傾向

市町村一致率は14% (川西市) から55% (福江市) の間に分布していた。また，府県一致率(同県同士)は38% (川西市) から83% (旭川地方と福江市) の間に分布していた。このように川西市で低い値が得られた理由の一つには，同市が大阪府に隣接していることがあげられる。一方，郡部や離島では同県同士の割合が高い(78~83%)ことがわかる。

(2) 同類婚と異類婚

結婚相手を選ぶ際に，地理的，社会的な制約条件の下で相手の身体的形質，諸属性，その他の諸条件を考慮して配偶者を選択している。これまでに得られた結果によれば，社会階層に関しては，同じ

階層に属する者同士の結婚(同類婚)が多くみられ，逆に続柄(あととり，非あととり)のように，あととり娘と長男の結婚が少なく次三男との結婚(異結婚)が多くみられる場合もある。そのほか，知能指数に関しては同類婚が認められている。種々の形質や属性に関して，同類婚と異類婚のどちらであるかをみるのに，2種類の判定方法がある。知能指数や身長のように数量化されている場合には，夫妻の間でその形質に関する相関係数を計算し，正相関が得られれば

表12 夫妻の学歴組み合わせ別、同類婚指数

夫の学歴 妻の学歴	新制中学、 旧制高小、 旧制小学校	新制高校、 旧制中学	専修学校	短大、高専	大学以上
新制中学、旧制高小、 旧制小学校	1.16	1.02	0.92	0.89	0.68
新制高校、旧制高女	0.49	1.09	1.40	1.12	1.70
専修学校	0.47	0.75	1.27	1.51*	2.45
短大、高専	0.34*	0.62	1.15*	3.70*	2.48
大学以上	0.29	0.69	0.70*	1.20*	3.38

*が付いているのはサンプル数20未満のものである。

2) 結婚前の住所

表13は夫妻の結婚前住所が市郡別組み合わせの同類婚指数を結婚形態別に示したものである。婚前住所の市郡区分に関しては同類婚が多く、特に夫妻とも郡部に住んでいた夫婦の数がランダムな配偶者選択が行われた場合に生じる夫婦組数の2.5倍にも上っている。この組み合わせの指数は見合結婚の場合に2.0、恋愛結婚の場合には3.1となっている。なお、夫妻とも市部に住んでいた組み合わせについての指数は見合結婚と恋愛結婚でほとんど同じ値が得られた。

表13 結婚形態別、夫妻の婚前住所市部・郡部組み合わせ別、同類婚指数

結婚形態	夫の婚前住所		妻の婚前住所	
	市部	郡部	市部	郡部
総数	市部	郡部	1.28	0.40
	市部	郡部	0.31	2.48
見合結婚	市部	郡部	1.28	0.53
	市部	郡部	0.40	2.00
恋愛結婚	市部	郡部	1.26	0.26
	市部	郡部	0.24	3.12

%水準で統計的に有意となった。すなわち、身長に似た者同士の結婚が多く、身長に関しては同類婚をしていることがわかった。わが国と同じように、イギリス、スウェーデンでも身長に関し同類婚をしている。アメリカにおいては、20年前に調べた時には身長に関して同類婚をしていたが、最近の報告によれば¹¹⁾身長に関し正相関を示してはいるが、統計的に有意水準に達しなかった。いいかえると、アメリカでは身長に関し、配偶者選択はランダムに行われつつあることを物語っている。

10) 厚生省人口問題研究所、前掲(注6)、『日本人の結婚と出産』、PP. 36-38.

11) これらの国の報告は次を参照.

J. N. Spuhler, *Assortative mating with respect to physical characteristics*, *Eugenics Quarterly*, Vol. 15, 1968, PP. 128-140.

Richard A. Price et al., *Spouse similarity in American and Swedish couples*, *Behavior Genetics*, Vol. 10, No 1, 1980, PP. 59-71.

が伺える。したがって、第8次出産力調査結果¹⁰⁾と同様に本調査結果からも、男性の中卒者と女性の大卒者は配偶者選択の範囲が最も狭く、結婚相手を見つけるのが困難になっていることがわかる。

3) 身長と同類婚

身長は配偶者選択の際に考慮する要素の一つである。特に女性の場合には、相手が自分の身長より高いことが必要条件としてあげられることが多い。

全標本について、夫妻の平均身長をみると、夫は165.9cm、妻は154.2cmである。夫妻の身長に似た者同士の結婚が多いのか、あるいは長身と短身の夫妻の組み合わせが多いのかをみてみたい。夫妻ともに身長がわかっている8,561組の夫婦について、身長の相関係数を計算したところ、この値は0.26となり1

4) 続柄と異類婚

結婚形態別に続柄について同類婚指数をみると(表14), あととり同士と非あととり同士の結婚(同類婚)が少なく, あととりと非あととりの結婚(異類婚)が多いことがわかる。この傾向は見合結婚で特に顕著である。一方, 恋愛結婚では同類婚と異類婚が同程度行われており, 続柄に関してはランダムな結婚が行われているといえよう。

(3) 近親婚

近親婚とは血縁関係にある者同士の結婚のことを意味している。わが国において法律上認められている最も血縁の近い結婚は, いとこ結婚である。本調査における近親結婚の種類は, いとこ結婚, いとこ半結婚(いとこといとこの子供との間の結婚), またいとこ結婚(はとこともいい, いとこの子供同士の結婚のこと), またいとこ半結婚, その他の血縁関係にある結婚(上記以外の血縁関係)の5種類である。なお, 他人結婚とは血縁関係のない者同士の結婚のことである。いとこ結婚の頻度(いとこ婚率)は全夫婦組数に対する, いとこ結婚をしている夫婦組数の割合によって示される。いとこ婚率以外の近親婚についても同じようにして計算できる。なお, 全近親婚率は, これら5種類の近親結婚夫婦組数の合計を全夫婦組数で除した値である。

世界中で一番近親婚率の高い国はエジプトとインドであり, これらの国における近親婚率は30%以上にも達している。しかしながら, わが国でも山村や孤島などの集団で近親婚率を調べると, 30%を越えている集団(地区)がいくつかあった。わが国における近親婚率はこれら隔離された集団ばかりでなく, 都市においてもつい最近まで近親婚率は数パーセントにおよんでいた¹²⁾。さて, わが国における近親婚率と諸外国の値を比較すると, わが国の値はインド・エジプトの次に高く, ブラジルの値と同水準にある。しかしながら, 今泉ら(1975)が既に報告したように¹³⁾, わが国の近親婚率は結婚年次と共に急速に減少し, 戦前に結婚した夫婦と最近結婚した夫婦(昭和42~47年)とを較べると, 後者は前者の1/7まで減少している。ところが, 最近の11年間におけるわが国の近親婚率を調べた

表15 地域別にみた近親婚率

地 域	夫婦組数	いとこ婚率	全近親婚率
旭川地方	1,544	0.45%	0.78%
多賀城市	1,583	1.58	3.03
身延町	1,555	2.25	5.53
岡崎市	1,527	1.05	2.55
川西市	1,458	1.23	3.43
福江市	1,558	2.89	7.89
合 計	9,225	1.58	3.88

12) Taku Komai, *Genetic studies on inbreeding in some Japanese populations. I. Introductory remarks*, Japanese J. of Human Genetics, Vol. 17, No. 2, 1972, PP. 87-113.

13) Yoko Imaizumi et al., *Inbreeding in Japan: Results of a nation-wide study*, Japanese J. of Human Genetics, Vol. 20, No. 2, 1975, PP. 91-107.

表14 結婚形態別、夫妻の続柄(あととり、非あととり)組み合わせ別、同類婚指数

結婚形態	夫の続柄	妻の続柄	
		あととり	非あととり
合 計	あととり	0.88	1.03
	非あととり	1.11	0.97
見合結婚	あととり	0.75	1.05
	非あととり	1.24	0.95
恋愛結婚	あととり	1.00	1.00
	非あととり	1.01	1.00

報告は1~2地区を除いてみあたらない。そこで, 本調査では近親婚率の地域格差ならびに年次推移をみるため, 近親婚に関する調査項目を加えた。近親婚率を調べることは, 集団全体の人口資質を知る上で大切である。なぜなら, 近親結婚をした夫婦の子供は, 他人結婚をした夫婦の子供より常染色体性劣性遺伝病(例えば白子など)の発生率が高いことや, 死産, 乳幼児死亡率が高いこと, ある種の先天奇形発生率が高いことなど知られているからである。

表15は6調査地区における近親婚率を示している。

一番高い全近親婚率は福江市（7.9%）、次が身延町（5.5%）、中間の値は川西市（3.4%）、多賀城市（3.0%）、岡崎市（2.6%）、一番低い値は旭川地方（0.8%）で得られた。これらの結果は今泉ら（1975）が報告した結果とよく一致している。

図6 近親婚率の年次推移

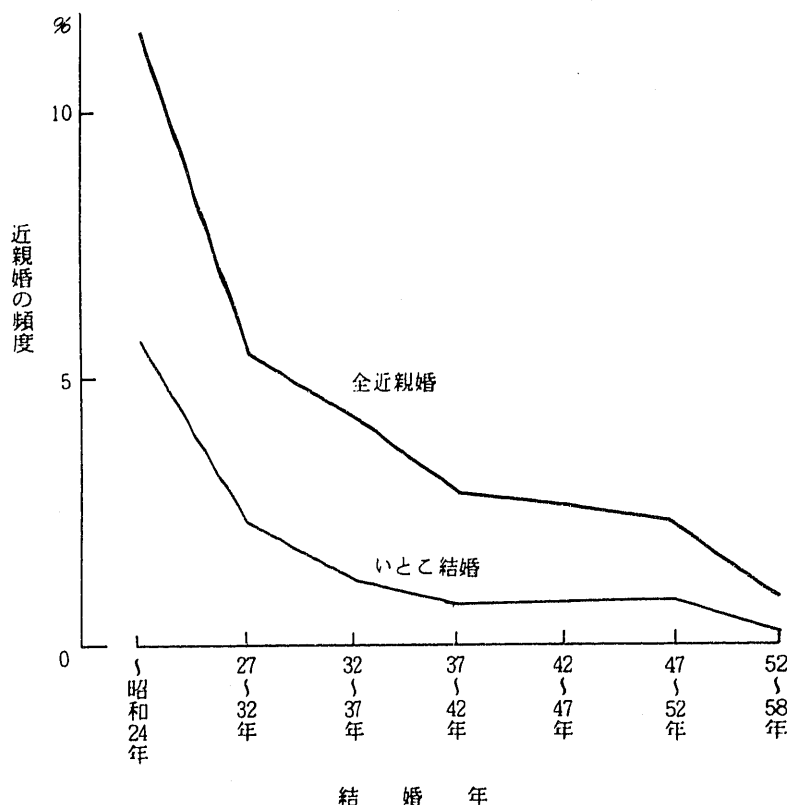


図6は結婚年次別にみた近親婚率を示している。この図から、いとこ婚率も全近親婚率も結婚年次と共に減少していることがわかる。なお、最近結婚したグループ（昭和47年～53年）の近親婚の頻度はいとこ結婚0.56%、いとこ半結婚0.11%、またいとこ結婚0.52%、またいとこ半結婚0.11%、その他の血縁のある結婚0.33%、全近親婚1.63%であった。

以上の結果から、近親婚率は地域によって大きな格差がみられること、また、近親婚率は最近結婚した夫婦の間でも減少していることがわかった。このような近親婚率の減少は死亡率、乳幼児死亡率、劣性遺伝病の頻度、先天異常率の減少へと結びついている。わが国のように諸外国に較べて近親結婚の多い国においては、今後も近親婚の動向を調べていく必要がある。

3. 配偶者選択の条件

ヒトは配偶者を選ぶ際、種々な結婚条件の中から少しでも自分に適した条件を満たす相手を選んで、結婚したいと願っている。そこで、この調査では配偶者選択において考慮しそうな一般的な結婚条件のうち17項目について、結婚の際にそれぞれの項目について「重視した」、「ある程度重視した」、「重視しなかった」、「覚えていない」かどうかを夫婦に尋ねた。結婚条件として重視した割合の算出方法は、各項目について回答者の中で「重視した」と「ある程度重視した」者を加え、全回答者から「覚えていない」と答えた人数を引いた値で除した。その結果、重視した割合が夫妻ともに50%を越えた項目は「相手の人柄」（夫89%：妻91%）、「相手の健康」（87%：87%）、「相手のものの考え方や生活態度」（74%：78%）、「相手が初婚か再婚か」（70%：68%）、「相手の容姿」（72%：60%）、「相手の能力や将来性」（51%：71%）であった（表16）。更に、妻のみが50%を越えた項目は「相手の職業」（68%）、「相手の年齢」（58%）であった。重視した割合が高い項目の1番から3番までは夫妻とも同じであるが、4番目は夫が「相手の容姿」、妻が「相手の能力や将来性」であった。なお、重視した割合が夫より妻の方が20%以上も高い項目は、「相手の収入」（49%）、「相手の職業」（46%）、「相手の親との同別居」（24%）、「相手の能力や将来性」（20%）であった。一方、夫の方が妻より重視した割合が高い条件は「相手の容姿」（12%）、「相手が初婚か再婚か」（2%）だけであった。次に、結婚条件として重視した割合が夫妻とも25%以下の項目は「相手の実家の資産」（夫

10%：妻15%)、「相手が同県人かどうか」(15%：21%)、「相手の宗教」(20%：21%)であった。更に、夫のみが25%以下の項目は「相手の収入」(9%)、「相手の職業」(22%)、「相手の趣味」(25%)であった。

次に、結婚年次別に結婚条件の項目に関して重視した割合を見ると(表17)、夫妻とも重視した割合

表16 夫妻別にみた結婚条件として重視した割合

結 婚 条 件	夫		妻	
	回 答 者 数	重視した割合(%)	回 答 者 数	重視した割合(%)
相手の年齢	7,348	49.5	7,622	58.1
相手の職業	7,151	22.0	7,687	67.8
相手の収入	6,991	9.2	7,403	58.6
相手の学歴	7,132	32.2	7,460	45.1
相手が初婚か再婚か	7,132	70.3	7,439	68.0
相手の人柄	7,602	89.1	7,901	91.5
相手の容姿	7,184	72.0	7,381	59.7
相手の健康	7,075	87.3	7,274	86.8
相手の能力や将来性	7,083	50.9	7,516	71.2
相手のものの考え方や生活態度	7,143	74.2	7,426	77.9
相手の趣味	7,018	24.6	7,363	30.6
相手が同県人かどうか	7,036	15.0	7,342	21.2
相手の宗教	6,959	20.1	7,233	21.2
相手の実家の家柄	7,160	31.2	7,452	34.8
相手の実家の資産	7,060	9.7	7,381	15.4
相手の親との同別居	6,939	19.7	7,342	43.8
相手の近身者の遺伝病の有無	7,097	41.9	7,428	48.2

表17 夫妻別にみた結婚条件として重視した割合(%)の年次推移

夫の結婚条件	～昭和24年	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-58
相手の年齢	56.5	59.4	54.7	52.2	48.6	44.3	44.9	44.0
相手の職業	22.0	27.9	24.2	21.8	22.1	20.5	19.2	22.8
相手の収入	9.1	9.1	9.4	9.4	8.6	8.5	8.7	11.2
相手の学歴	33.5	39.9	31.6	32.2	35.1	30.4	28.6	31.2
相手が初婚か再婚か	72.2	77.6	75.4	73.4	71.8	67.0	66.4	65.1
相手の人柄	84.4	90.3	87.6	88.9	88.6	89.8	89.6	92.7
相手の容姿	66.5	74.9	71.2	69.2	71.6	71.8	73.7	75.5
相手の健康	83.7	90.7	89.4	89.0	87.6	85.7	86.4	87.0
相手の能力や将来性	53.8	59.1	58.1	52.4	48.3	47.6	46.2	49.7
相手のものの考え方や生活態度	65.5	68.9	68.6	71.8	73.5	76.6	78.5	82.6
相手の趣味	21.0	25.6	24.3	23.5	24.7	23.7	23.6	29.3
相手が同県人かどうか	22.4	20.0	17.7	16.1	11.7	12.5	13.5	14.9
相手の宗教	26.5	22.0	17.2	18.6	21.2	16.6	21.8	21.0
相手の実家の家柄	43.8	48.4	38.6	33.5	31.0	24.3	22.2	23.7
相手の実家の資産	13.3	14.3	10.7	10.5	9.3	7.9	7.2	7.1
相手の親との同別居	19.7	18.4	19.6	18.7	18.2	17.8	21.3	24.6
相手の近親者の遺伝病の有無	60.0	57.5	53.5	46.6	43.0	33.9	32.0	28.6

表17 (つづき)

妻の結婚条件	～昭和24年	25—29	30—34	35—39	40—44	45—49	50—54	55—58
相手の年齢	58.5	61.2	64.2	58.0	60.1	54.3	56.1	58.3
相手の職業	68.0	70.8	74.1	73.0	69.3	61.6	65.2	64.3
相手の収入	48.4	59.1	62.5	61.2	60.3	56.2	57.2	62.3
相手の学歴	41.7	48.3	42.8	45.6	46.4	44.3	45.1	45.7
相手が初婚か再婚か	74.4	74.4	76.7	71.9	68.6	64.1	63.4	62.0
相手の人柄	85.0	89.9	90.2	91.4	91.0	93.1	94.4	96.7
相手の容姿	57.6	63.0	59.6	59.5	56.8	59.4	62.0	60.4
相手の健康	84.6	90.3	91.2	87.3	86.5	83.6	84.3	90.1
相手の能力や将来性	71.4	74.5	78.6	75.3	68.8	66.9	67.1	72.3
相手のものの考え方や生活態度	68.6	69.2	74.7	76.0	77.2	78.3	83.3	88.7
相手の趣味	23.5	31.2	29.9	26.8	29.2	28.5	33.2	40.3
相手が同県人かどうか	25.8	31.6	25.4	20.6	18.7	16.0	18.8	24.1
相手の宗教	25.3	26.1	21.9	19.0	22.4	19.0	19.7	21.0
相手の実家の家柄	49.4	45.6	45.3	37.4	33.9	28.6	26.8	29.2
相手の実家の資産	23.7	22.2	22.1	17.1	13.3	11.2	11.7	13.0
相手の親との同別居	31.5	38.5	39.2	39.9	44.1	46.1	48.4	51.7
相手の近身者の遺伝病の有無	61.4	62.1	61.6	53.6	50.3	41.2	37.5	34.3

合が上昇している項目は「相手の人柄」、「相手のものの考え方や生活態度」であった。一方、重視した割合が減少している項目は「相手の実家の家柄」、「相手の実家の資産」、「相手の近身者の遺伝病の有無」、「相手が初婚か再婚か」などであった。なお「相手の健康」、「相手の容姿」に対して重視した割合は、どの年次群でも同程度であり、昔も今も意識に変化がみられないことがわかる。一方、重視した割合が夫と妻で異った傾向を示したのは「相手の親との同別居」であった。すなわち、夫側が重視した割合はどの年次群でも20%前後であるのに対し、妻側の値は31%から徐々に上昇し昭和55年以降に結婚したグループでは53%にも達している。また、「相手の年齢」を重視した割合は、夫側は57%から44%へと減少しているが、妻側は結婚年次に対して60%前後と横ばい傾向を示している。

次に、地域別に結婚条件の各項目について、重視した割合をみると17項目のうち男子は14項目、女子は15項目に関して地域差がみられなかった(図7)。一方、重視した割合が最高を示した地域と最小を示した地域の差が20%を越した項目は夫妻とも「相手が同県人かどうか」、「相手の宗教」であった。更に、夫については「相手の近身者の遺伝病の有無」であった。上記2項目については福江市が共に最高値を示しているが、これは福江市が島であるため、特に同県人を望む(夫25%：妻35%)傾向にあるものと思われる。なお、これと対症的なのが旭川地方(夫5%：妻12%)であった。また、福江市の場合、結婚相手の宗教を重視する割合(夫33%：妻35%)が他の地域(夫13～20%：妻13～21%)より高かった。表18は夫妻が信仰している宗教を地域別に示している。信仰している宗教を持っている人の割合(全体から不詳分を除いた)は夫が44%(多賀城市)から83%(福江市)、妻が46%(多賀城市)から83%(福江市)、全標本平均では夫が56%、妻が57%であった。なお、この表から明らかなように、信仰している宗教のある割合は福江市が全国平均より26～27%以上も高くなっている。このように福江市で「相手の宗教」を重視する割合が他の地域より高いのは、福江市の住民が他の地域の住民より信仰している宗教を持つ割合が高いことと関係しているものと思われる。しかしながら、わが国では信仰している宗教のほとんどが仏教であることと(表18)、わが国はアメリカやヨー

図7 夫妻別にみた結婚条件として重視した割合の地域差

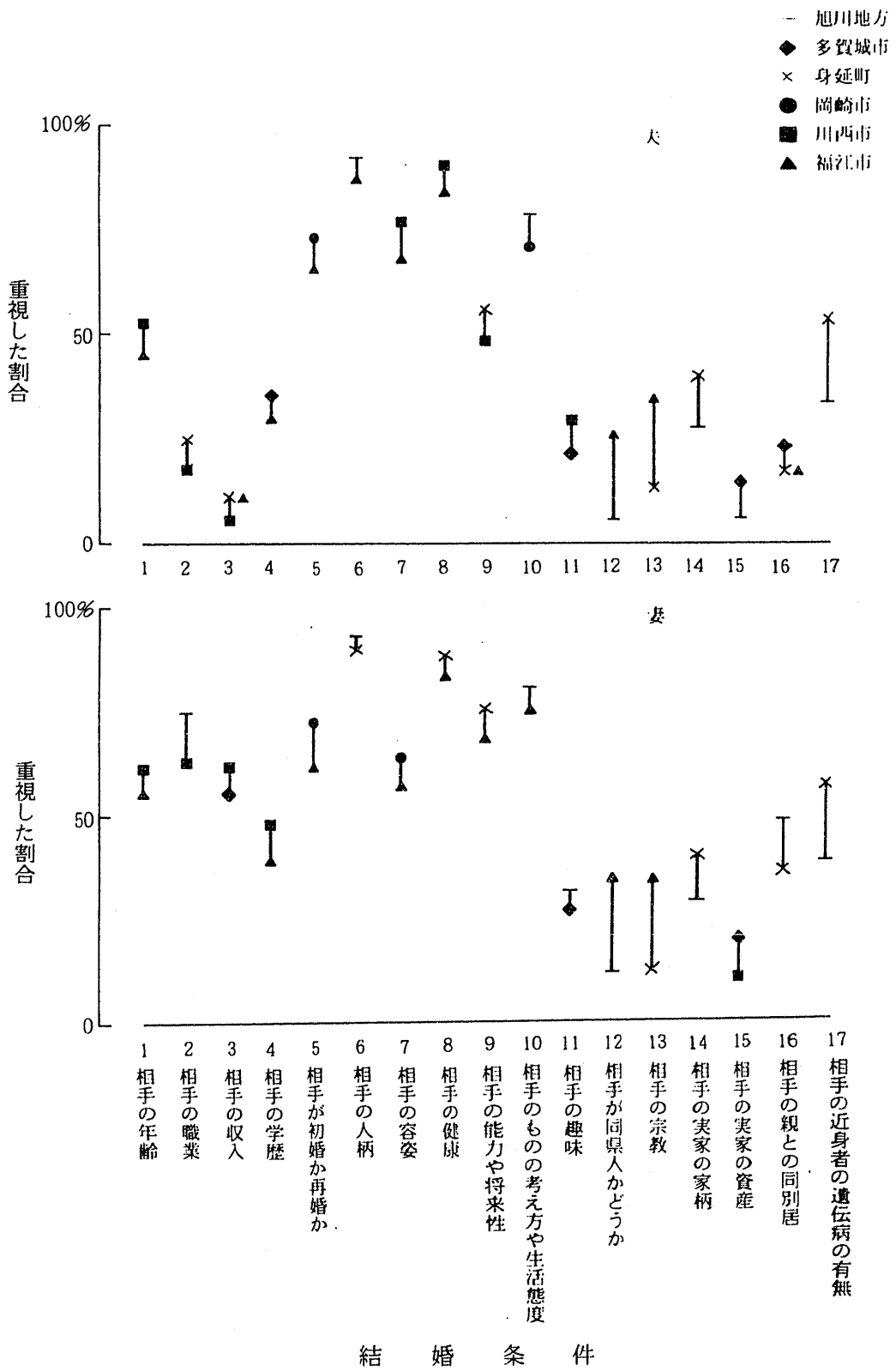


表18 地域別、夫妻の信仰している宗教の割合

		人 数	仏 教	神 教	カソリック	そ の 他	特になし
夫	旭川地方	1,425	50.0%	2.7%	0.6%	0.8%	46.0%
	多賀城市	1,431	40.7	2.2	0.6	0.4	56.0
	身延町	1,329	58.5	1.2	0.1	0.6	39.6
	岡崎市	1,361	43.2	2.2	0.2	1.3	53.1
	川西市	1,253	40.1	2.7	0.7	1.5	55.0
	福江市	1,360	74.5	3.1	4.7	0.7	17.0
	合 計	8,159	51.2	2.3	1.2	0.9	44.5
妻	旭川地方	1,429	49.6%	3.1%	1.0%	1.3%	45.1%
	多賀城市	1,442	42.4	2.2	0.7	1.0	53.7
	身延町	1,333	59.0	1.1	0.2	0.8	38.9
	岡崎市	1,358	44.8	2.4	0.4	1.6	50.8
	川西市	1,255	42.6	3.6	0.8	2.1	51.0
	福江市	1,352	73.8	3.1	5.4	1.1	16.6
	合 計	8,169	52.0	2.6	1.4	1.3	42.7

ロッパ諸国と較べて信仰心の弱い国¹⁴⁾であることが関係して配偶者選択において宗教の重視度が低いものと思われる。なお、福江市が他の調査地域より宗教を重視していることは、宗教が配偶者選択の範囲をせばめる要素の一つになっていると思われる。

次に、結婚形態別に結婚条件の各項目について重視した割合をみると(図8)、夫妻ともに見合結婚の方が恋愛結婚より重視した割合が高い項目が多く、夫側では17項目中12項目、妻側では13項目において見合結婚の方が恋愛結婚より高い値を示している。夫妻とも恋愛結婚の方が見合結婚より高くなっている項目は「相手の人柄」、「相手のものの考え方や生活態度」、「相手の趣味」であった。次に、続柄別に結婚条件の各項目について重視した割合をみると(図9)、夫側ではあととりと非あととり間の差は全くみられなかったが、妻側では、非あととりの方があととりより僅かに重視した割合が高い傾向がみられた。

次に、夫または妻がそれぞれの結婚条件について「重視した」あるいは「ある程度重視した」と答えた項目を加えていけば、一人が平均してどのくらいの結婚条件を出しているかがわかる。図10は夫妻別にみた結婚条件数の分布を示している。非回答者は夫が13.3%、妻が9.7%いたが、結婚のとき重視した条件数で一番多かったのは、夫が7項目(9.3%)、妻が8項目(7.8%)であった。しかしながら、どの結婚条件に対しても、重視しなかった人が夫は3.7%、妻は2.4%いた。一方、10項目以上の条件を重視した人も夫18%、妻36%もいた。不詳を除いて、平均値を計算すると夫は6.5項目、妻は8.1項目であった。すなわち、夫妻ともに6～8項目の結婚条件を付していることがわかる。

以上のことから、配偶者選択は個人をとりまく背景(家)を重視する割合が結婚年次と共に減少し、そのかわりに本人自身の性格的な要素を重視する割合や自分達の生活に直接かかわりのある親との同別居(特に妻側)を重視する割合が増えている。したがって、配偶者選択は家重視から本人重視へと移行していることが伺える。また、相手の年齢や初再婚に対して、こだわる割合も僅かながら減少していることから、配偶者選択の範囲も拡大傾向にあるといえよう。

14) 余暇開発センター、『日米欧価値観調査(解説編)』、国際価値会議討議資料、1983年、1月、PP. 35-36.

図8 夫妻別、結婚形態別にみた結婚条件として重視した割合

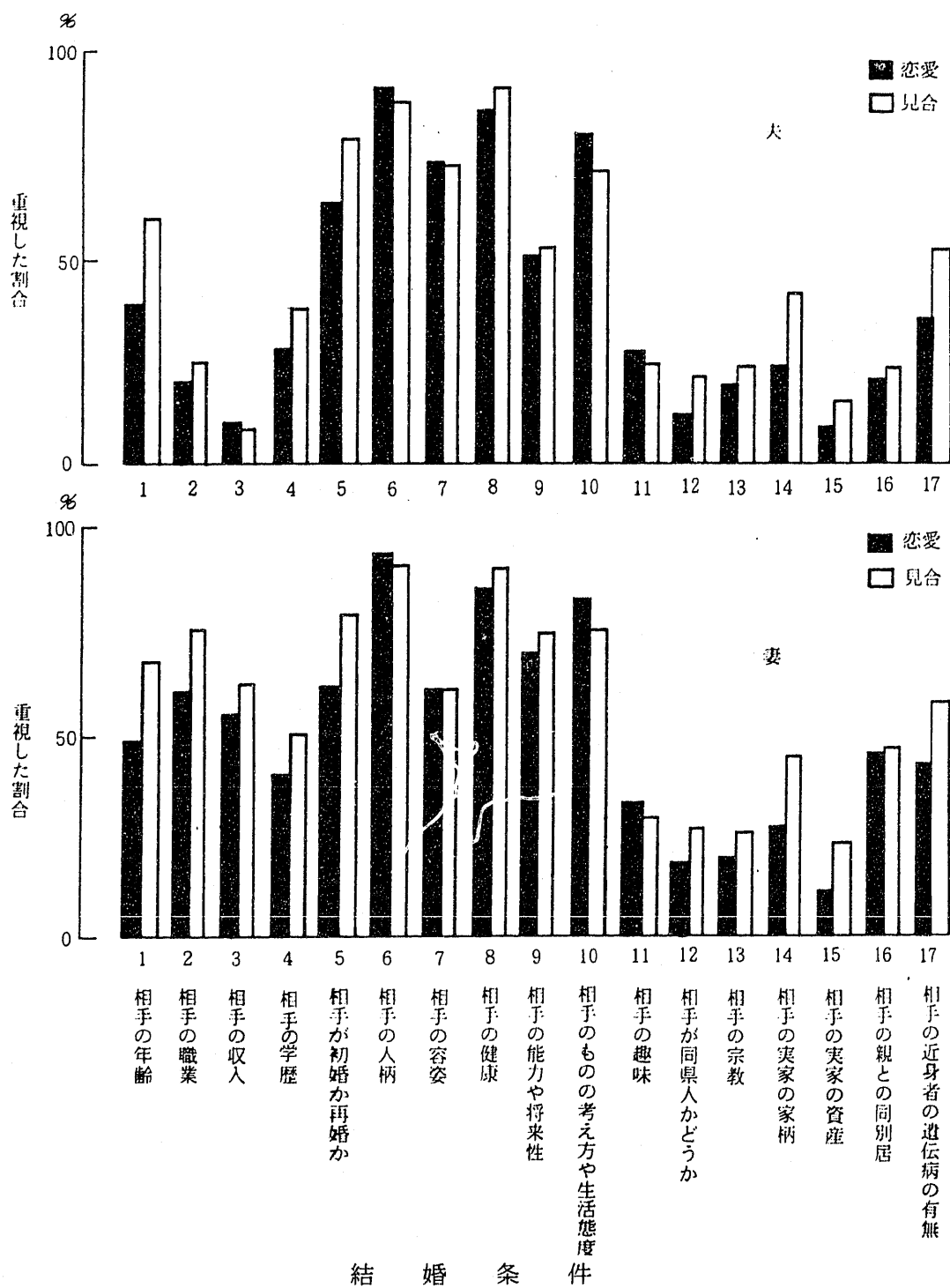


図9 夫妻別、続柄別にみた結婚条件として重視した割合

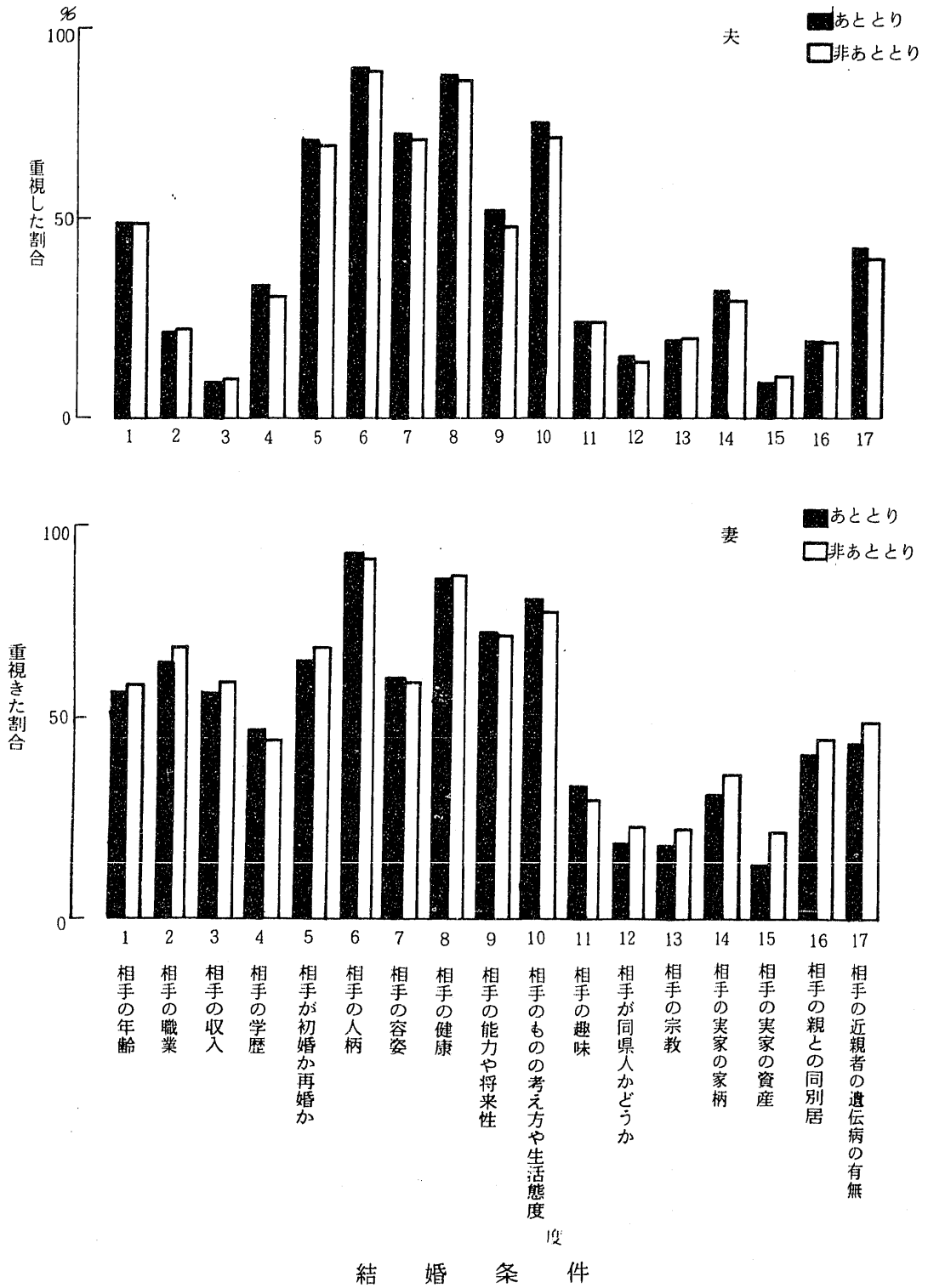
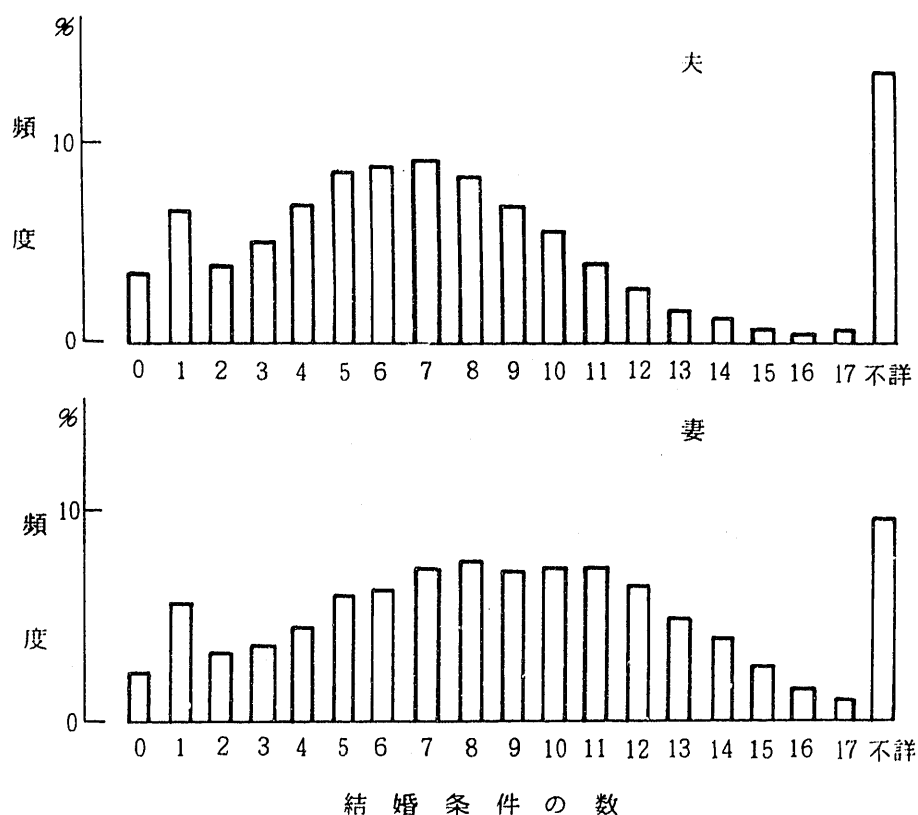


図10 夫妻別にみた結婚のとき重視した結婚条件数の頻度分布



Trends of Mate Selection in Japan

Yoko IMAIZUMI and RYUICHI KANEKO

“The Demographic Survey on Japanese Marriages” conducted on September 1, 1983 by the Institute of Population Problems, Ministry of Health and Welfare. The total number of couples studied was 9,225, chosen from six widely different areas of Japan. These areas encompass the entire Japan. The survey was limited to all these married couples whose husbands and wives were under the age of 65 years at September 1, 1983. Major findings are as follows :

- 1) Marriage types (Love match and arranged marriages)

In the present survey, marriage types are divided into three categories : love match marriages, arranged marriages and others. Frequencies of marriage types were 46.6% for the love match marriages, 47.2% for the arranged marriages, and 6.2% for others. These frequencies are changed with marriage year. Namely, the frequency for the arranged marriages decreased with marriage year, whereas that for the love match marriages increased with marriage year.

2) Circumstances of encounter

For questions about circumstances of encounter, husbands and wives were asked to how to get acquainted with each other. Thus, the most popular one was "work place". However, the most popular one was at "school" among the groups for the highest level of education attainment for husbands and wives.

3) Assortative mating and consanguineous marriages

A significant positive assortative mating with respect to stature was indicated.

The rates for first cousin marriages and for total consanguineous marriages for all areas are 1.6% and 3.9%, respectively. The rates are decreased with marriage year.

4) Personal factors in mate selection

For questions about personal factors in mate selection, husbands and wives were asked to express a judgment of relative importance regarding each of the 17 personal factors. Degrees of relative importance were indicated on the questionnaire by the numbers 1 - 4. The explanatory term—very important (1), moderately important (2), not important (3), and do not remember (4)—were used to describe the relative degrees of importance. Excluding number of persons indicated the term (4), the proportion of importance in each factor for husbands and for wives was computed. Thus, among 17 factors, the most important factor was "personality", the second was "health", the third was "the way of thinking and life attitude" for husbands and for wives. The fourth was "personal appearance" for husbands and "ability to many things" for wives. On the other hand, the items for "wealth of parents", "same prefecture of birthplace or not" and "religion" were not so important factors in mate selection.

Proportion of importance decreased with marriage year in the following items : "social standing of parents", "wealth of parents", "relative's genetic diseases", and "first marriage or remarriage". On the other hand, the proportions for the items for "health" and "personal appearance" were constant with marriage year.